

**教科名** 振り返り講義②

**責任者名** 中井 久美子

**学期** 後期

**対象学年** 3学年

**授業形式等** 講義

**◆担当教員**

池田 貴之 歯科補綴学 准教授  
松本邦史 歯科放射線学 教授  
小林真之 薬理学 教授  
山崎洋介 解剖学Ⅱ 准教授  
今井健一 感染症免疫学 教授  
神尾宜昌 感染症免疫学 准教授  
田村宗明 感染症免疫学 准教授  
岡崎章悟 感染症免疫学 助教

**◆一般目標 (GIO)**

第2学年で学んだ事項を第3学年以降の科目の履修の基礎とするために、歯科学に関する知識の総合的な理解を深め、身につける。

**◆到達目標 (SBOs)**

特に共用試験で必要となる学修事項について格段の学力向上を図り、試問に対応できる。

**◆評価方法**

- ・振り返り講義試験①（前期の定期試験期間に実施）試験範囲は前期の振り返り講義の第1回～第28回とその関連事項。
- ・振り返り講義試験②（後期の定期試験期間に実施）試験範囲は後期の振り返り講義の第1回～第14回とその関連事項。
- ・各試験において、得点率が50%に達しない場合は、当該試験ごとに再試験を実施する。
- ・再試験を受験した後においても、2つの試験のうち、いずれか一方でも得点率が50%に達しない場合は、当該年度の「進級判定及び単位認定の特例」の対象外とする。
- ・得点率は小数点以下を切り捨てて算出する（第1位を四捨五入しない）。

**◆オフィス・アワー**

**担当教員** 中井 久美子

**対応時間・場所など** 月曜日 16:00～17:00 衛生学講座（本館7F）

**メールアドレス・連絡先** [nakai.kumiko10@nihon-u.ac.jp](mailto:nakai.kumiko10@nihon-u.ac.jp)

**◆授業の方法**

第2学年で履修した科目の学修事項を、公的試験における試問の視点で講義形式で復習する。また、適宜、第3学年で履修中の科目との関連性を確認しながら講義を行う。なお、各講義内容についての質問はその授業担当者にすること。

**◆教材 (教科書、参考図書、プリント等)**

教科書1 顎口腔機能学、第2版、全国歯科技工士教育協議会、医歯薬出版  
教科書2 歯科放射線学、第7版、岡野智宏 他、医歯薬出版  
教科書3 現代歯科薬理学、第7版、鈴木邦明他、医歯薬出版  
教科書4 標準病理学、第7版、北川昌伸他、医学書院  
教科書5 口腔微生物学 -感染と免疫-、第8版、石原和幸 他、学建書院  
教科書6 組織学・口腔組織学、第5版、磯川桂太郎 他、わかば出版

**◆DP・CP**

コンピテンス4：歯科医学および関連領域の知識  
コンピテンス：4-2, 4-3, 4-4,4-6, 4-7, 4-8, 4-9  
コンピテンス8：生涯学習  
コンピテンス8-1  
対応するディプロマポリシー：DP3, DP4, DP8

**◆準備学習(予習・復習)**

予習では各授業回の学修項目に該当する教科書や配布資料に目を通して用語などを確認しておくこと。  
復習では講義で振り返った事項について理解に至っていない事項を洗い出し、担当教員への質問などによって解決するとともに、振り返り講義試験②に向けて要点を整理すること。

**◆準備学習時間**

授業時間半分相当を予習あるいは復習の目安とし、自身の理解や知識の定着の度合いに応じて調節すること。

**◆全学年を通しての関連教科**

顎口腔機能学（2年後期）  
歯科放射線学（2年前期）  
薬理学1（2年後期）  
口腔組織学（2年前期）  
感染症免疫学（2年前期・後期）

## ◆予定表

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当科目 担当教員	R4年度版コアカリキュラム
1	AB	9月7日	3	顎口腔系の機能・構成、下顎運動および咬合教1) pp.1-71 資料配布	・2年時に学修した顎口腔系の機能・構成、下顎運動および咬合について説明できる	池田 貴之	A-3-2-3頭頸部を構成する筋を理解している。 A-3-2-4吸嚥、咀嚼、嚥下機能を担う筋の構造と機能、支配神経を理解している。 A-3-2-8顎関節の構造と機能を理解している。 A-3-2-10吸嚥、咀嚼、嚥下の意義と制御機構を理解している。 A-3-3-1口腔の区分と構成要素を理解している。 A-3-3-5歯列と咬合を理解している。 B-3-2歯科用機器の種類、構成、原理、特性及び使用方法を理解している。 D-2-2-1診察、検査に必要な事項、器材を理解している。
2	AB	9月14日	3	1) 放射線の生物学的影響 2人体に対する放射線影響 3) 医療における放射線防護 教2) pp.19-62 資料配布	・正常組織と腫瘍組織の細胞動態の相違点および正常組織と腫瘍組織の放射線感受性について説明できる。 ・確定的影響および確率的影響について説明できる。 ・放射線防護の目的・体系や被曝の行為の正当化、最適化、線量限度について説明できる。	松本邦史	D-2-5-1 放射線の種類、性質、測定法と単位を理解している。 D-2-5-2 放射線の人体(胎児を含む)への影響の特徴(急性影響と晩発影響等)を理解している。 D-2-5-3 放射線防護の基準と方法を理解している(医療放射線安全管理責任者の内容を含む)。
3	AB	9月28日	3	基本薬理作用、受容体 教3) pp.2-7、36-38、72-80、134-140、142-146 資料配布	・基本薬理作用および受容体の種類とその特徴について説明できる。・局所麻酔薬の作用機序について説明できる。	小林真之	A-6-2 薬理作用の基本薬物(和漢薬を含む)の作用に関する基本的事項を理解する。 A-6-1 薬物と医薬品 医薬品の基本的事項(分類、開発と評価)を理解する。
4	AB	10月5日	3	骨格筋および平滑筋の収縮 教3) pp.116-132 資料配布	・骨格筋と平滑筋の筋の収縮および弛緩のメカニズムについて説明できる。・筋弛緩薬の作用機序について説明できる。	小林真之	A-6-2 薬理作用の基本薬物(和漢薬を含む)の作用に関する基本的事項を理解する。
5	AB	10月19日	3	薬物動態 教3) pp.15-22、51-55 資料配布	・薬物動態について説明できる。	小林真之	A-6-3 薬物の投与方法と体内動態 投与された薬物の生体内運命を理解する。 A-6-4 薬物の副作用と有害事象を考慮した薬物治療の基本原則 薬物(和漢薬を含む)の副作用・有害事象の種類及び連用と併用の影響を考慮した薬物治療の基本的事項を理解する。

6	AB	10月26日	3	歯の組織学 教 6)pp.265- 297 資料配 布	エナメル質、象牙質、歯髄の基本構造、加齢 変化について説明できる。	山崎洋介	A-3-4-4 永久歯、乳歯、 根末完成歯、幼若永久歯 の硬組織の構成成分、構 造及び機能を理解してい る。 A-3-4-5 歯髄の構造と機 能を理解している。
7	AB	11月2日	3	歯周組織の組 織学 教 6)pp.299- 345 資料配 布	セメント質、歯槽骨、歯肉、歯根膜の基本構 造、加齢変化について説明できる。	山崎洋介	A-3-4-4 永久歯、乳歯、 根末完成歯、幼若永久歯 の硬組織の構成成分、構 造及び機能を理解してい る。 A-3-4-7 歯周組織の構造 と機能を理解している。
8	AB	11月9日	3	歯の形成と萌 出、脱落 教 6)pp.227- 264 口腔諸組織 の組織学 教) pp.327- 372 資料配 布	歯胚の形成と歯胚のステージについて説明で きる。 エナメル芽細胞、象牙芽細胞の分化と基質 形成について説明できる。 歯の萌出と交換にともなう乳歯脱落の機構 と組織変化について、順を追って説明でき る。  口腔粘膜、唾液腺、舌、扁桃、顎関節の基 本構造について説明できる。	山崎洋介	A-3-1-1-2 皮膚と粘膜 の基本的な構造と機能を 理解している。 A-3-2-8 顎関節の構造と 機能を理解している。 A-3-2-16 扁桃の構造、 分布及び機能を理解して いる。 A-3-3-2 口唇と口腔粘膜 の分類と特徴を理解して いる。 A-3-3-3 舌の構造と機能 を理解している。 A-3-4-1 歯の発育及び交 換の過程と変化を理解し ている。
9	AB	11月16日	3	1.免疫 I 1)免疫担当 細胞 2)自然免疫 と獲得免疫 3)体液性免 疫と細胞性免 疫 教5) pp.210- 226, 232- 257 教6) pp. 2-13, 26- 27, 29, 173, 275 資料配布	・免疫担当細胞が列挙でき、それぞれの特徴 が説明できる。 ・自然免疫と獲得免疫を分類でき、それぞ れの特徴が説明できる。 ・体液性免疫と細胞性免疫を分類でき、そ れぞれの特徴が説明できる。	神尾直昌	A-4-2-1 自然免疫を担当 する細胞の種類と機能を 理解している。 A-4-2-2 獲得免疫を担当 する細胞の種類と機能を 理解している。

10	AB	11月23日	3	<p>2.免疫Ⅱ</p> <p>1)抗原提示細胞</p> <p>2)B細胞とT細胞</p> <p>3)サイトカイン</p> <p>4)アレルギー</p> <p>5)ワクチン教5)</p> <p>pp.227-251, 262-278</p> <p>教6) pp. 3, 5-8, 14-26, 28-33, 37-43, 47-49, 57, 63-64, 95, 117, 121, 152-156, 275, 324</p> <p>資料配布</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抗原提示細胞と内在性および外来性非自己の抗原提示が説明できる。</li> <li>・B細胞とT細胞の分化と種類、それぞれの機能が説明できる。</li> <li>・抗体の種類と機能を説明できる。</li> <li>・サイトカインが定義でき、主なサイトカインの役割が説明できる。</li> <li>・アレルギーが分類でき、それぞれの発症の機序が説明できる。</li> <li>・ワクチンが分類でき、それぞれの特徴が説明できる。</li> <li>・体液性免疫と細胞性免疫を分類でき、それぞれの特徴が説明できる。</li> </ul>	神尾宜昌	<p>A-4-2-3 抗原提示機能を理解している。</p> <p>A-4-2-4 粘膜免疫を理解している。</p> <p>A-4-2-5 免疫寛容と移植免疫を理解している。</p> <p>A-4-2-6 アレルギー性疾患、自己免疫疾患、免疫不全症の種類、発症機序及び病態を理解している</p> <p>A-4-2-7 ワクチンの意義と種類、特徴、接種法及び副反応を理解している。</p>
11	AB	11月30日	3	<p>3.感染</p> <p>1)感染の種類</p> <p>2)感染症</p> <p>4.一般細菌</p> <p>1)細菌の分類と構造</p> <p>2)細菌の性状と病原因子</p> <p>2)主な病原細菌の種類と疾患</p> <p>教5)</p> <p>pp.16-131</p> <p>教6) pp. 35-37, 146-151, 157, 192-225, 226-263, 338-353</p> <p>資料配布</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染と感染症との違いを説明できる。</li> <li>・感染経路を分類でき、列挙できる。</li> <li>・細菌の構造とその機能が説明できる。</li> <li>・細菌の分類、性状と病原性を説明できる。</li> <li>・病原微生物の種類に関連する疾患名を説明できる。</li> </ul>	田村宗明	<p>A-4-1-1 細菌、ウイルス、真菌及び原虫の基本的な構造と性状を理解している。</p> <p>A-4-1-2 細菌、ウイルス、真菌及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を理解している。</p> <p>A-4-1-3 細菌、ウイルス、真菌及び原虫による感染症の種類、予防、診断及び治療を理解している。</p> <p>A-4-1-4 新興・再興感染症を理解している。</p> <p>A-4-1-5 常在微生物叢の性状とヒトに対する感染機構を理解している。</p>

12	AB	12月7日	3	<p>5.特殊細菌</p> <p>1)マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア</p> <p>6.ウイルス</p> <p>1) ウイルスの構造と分類</p> <p>2)ウイルスの感染形式</p> <p>3)歯科に関連するウイルス疾患</p> <p>教5)</p> <p>pp.132-206</p> <p>教6) pp. 35-37, 146-151, 157, 192-225, 226-263, 338-353 資料配布</p>	<p>・マイコプラズマ,リケッチア, クラミジア, 真菌および原虫を説明できる。</p> <p>・DNAウイルスとRNAウイルスに分類し, 特徴と疾患名が説明できる。</p> <p>・歯科に関連するウイルスとその疾患が説明できる。</p>	今井健一	<p>A-4-1-1 細菌、ウイルス、真菌及び原虫の基本的な構造と性状を理解している。</p> <p>A-4-1-2 細菌、ウイルス、真菌及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を理解している。</p> <p>A-4-1-3 細菌、ウイルス、真菌及び原虫による感染症の種類、予防、診断及び治療を理解している。</p>
13	AB	12月14日	3	<p>7.口腔内環境</p> <p>1)口腔の体液</p> <p>2)デンタルプラーク</p> <p>8.う蝕</p> <p>1)う蝕原性菌</p> <p>2)う蝕の発症機序</p> <p>教5)</p> <p>pp.282-331, 364-369 資料配布</p>	<p>・唾液と歯肉溝滲出液を説明できる。</p> <p>・口腔常在菌叢を説明できる。</p> <p>・デンタルプラーク(バイオフィルム)の構造と病原性が説明できる。</p> <p>・う蝕原性菌を説明できる。</p> <p>・う蝕発症の機序が説明できる。</p>	岡崎章悟	<p>A-4-1-2 細菌、ウイルス、真菌及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を理解している。</p> <p>A-4-1-3 細菌、ウイルス、真菌及び原虫による感染症の種類、予防、診断及び治療を理解している。</p> <p>A-4-1-5 常在微生物叢の性状とヒトに対する感染機構を理解している。</p>
14	AB	12月21日	3	<p>9.歯周病</p> <p>1)歯肉炎と歯周病</p> <p>2)歯周病原菌</p> <p>10.化学療法</p> <p>1)化学療法薬の種類と作用機序</p> <p>2)化学療法薬の問題点</p> <p>11.滅菌と消毒</p> <p>1)滅菌法の種類</p> <p>2)消毒法の種類</p> <p>教5)</p> <p>pp.332-364, 370-417</p> <p>教6)</p> <p>134-147, 151, 174-191, 219, 270 資料配布</p>	<p>・歯肉炎と歯周病の違いを説明できる。</p> <p>・歯周病原菌の種類と病原性が説明できる。</p> <p>・軟組織および硬組織の炎症を説明できる。</p> <p>・化学療法薬の分類とその作用機序が説明できる。</p> <p>・薬剤耐性, 菌交代現象と菌交代症が説明できる。</p> <p>・滅菌の定義, 機序と代表的な滅菌法を説明できる。</p> <p>・消毒の定義, 機序と代表的な化学的消毒薬を説明できる。</p>	岡崎章悟	<p>A-4-1-2 細菌、ウイルス、真菌及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を理解している。</p> <p>A-4-1-3 細菌、ウイルス、真菌及び原虫による感染症の種類、予防、診断及び治療を理解している。</p> <p>A-4-1-5 常在微生物叢の性状とヒトに対する感染機構を理解している。</p> <p>A-4-1-6 感染症における化学療法の目的と原理、化学療法薬の作用機序を理解している。</p> <p>A-4-1-7 細菌の薬剤耐性機序を理解している。</p> <p>A-4-1-8 滅菌と消毒の意義、方法及び原理を理解している。</p> <p>A-4-1-9 院内感染でみられる感染機構及び問題となる微生物を理解している。</p>